



「宮城県東松島市への被災地派遣を経て、行政職員として、非常時の対応や平時から取り組めることについて、深く考えるようになりました」と話すのは、北見市上下水道局に勤務する傍ら、北海道地域防災マスターとして防災・減災活動に取り組む近藤 絢一さんです。

北海道地域防災マスターとは、消防や自治体で防災業務を経験し、北海道の認定研修会を受講した者等を地域の防災リーダーとして認定する制度で、近藤さんは平成28年10月の認定以来、学習会の講師や啓発活動を行っています。

近藤さんは平成26年4月から2年間、北見市からの派遣職員として、東日本大震災で被災した宮城県東松島市で、避難道路などの用地買収業務を担当しました。

「当初は半年間の派遣予定でしたが、現地の方々の温かさや復興への熱意に触れ、もっと力になりたいという思いから期間を2回延長し、2年間の勤務となりました。現地で被害の甚大さを肌で感じ、被災され

## 宮城県東松島市での経験を、非常時・平時の取り組みに生かせたら

た方々のお話を直接お伺いすることで、地震や津波の恐ろしさを再認識させられました」と話す近藤さんは、派遣期間終了後、防災政策などをより専門的に学ぶことを目的に、市の自己啓発等休業制度(無給)を利用して、北海道大学公共政策大学院に入学しました。

「修士課程在籍時は、政策に関する実践的な講義を受けながら、大学院の紀要に掲載するリサーチペーパー(研究論文)の執筆に力を入れました。また、防災分野だけではなく、財政・地域医療・人口減少やインフラの老朽化問題など、市職員として今後の業務に生かせる知識を幅広く習得することができました」と、2年間を振り返ります。近藤さんは全国自治体の東日本大震災以降の津波対策についての研究論文を発表し、修士課程を修了しました。

「さらに知見を深めて、活動の幅を広げたい」と語る近藤さん。市職員としても北海道地域防災マスターとしても、今後の活躍が期待されます。



北見市職員・北海道地域防災マスター

近藤 絢一さん

北見自治区

## 紹介します！きたみの活動団体

## 第 81 回

## 三輪小学校区地域協働推進協議会 「高齢者安否確認99カードの配布」

北見市の住民自治推進交付金を活用した地域協働まちづくり会議の取り組みを紹介します。

三輪小学校区地域協働推進協議会では、高齢者の見守り活動として、緊急時に活用してもらうための「99(きゅうきゅう)カード」を地域の高齢者夫婦や単身高齢者世帯に配布しています。

高齢者の緊急連絡先やかかりつけの病院、持病等を記入できるカードを希望者に配り、それぞれが個人情報を入力して自宅に配置し、緊急時に活用できるようにするものです。カードは毎年配布され、現在、約300世帯が利用しています。

高齢者の安心な暮らしの一助としながら、万が一の際の適切な対応を支援する取り組みとなっています。

この記事についてのお問い合わせは下記までご連絡ください。

☎市民活動課 ☎25-1105



●かかりつけの病院・医院		
*****	*****	*****
*****	*****	*****
*****	*****	*****
*****	*****	*****

  

●ふだんよく使う電話		
*****	*****	*****
*****	*****	*****
*****	*****	*****

くれしを  
 じあわせし  
 くだんの  
 ふだんの  
 わになり  
 みん  
 な

チーム三輪協働

<99カード>



## 現代の結核 その2

前回、結核は昔に比べてとても減りましたが、まだ無くなった病気ではないので、2～3週間以上咳が続くような場合は結核も疑って早めに医療機関に受診することが大切と書きました。

結核と診断されますと、昔は大気安静療法といって空気のきれいなところで安静にして栄養を摂るという方法が主流でしたが、第2次大戦後に結核菌をやっつける抗結核薬と言われる薬が次々に開発され、大気安静療法に取って代わり、今に至っています。

現在結核の治療としては、人にうつさなくなるまでは入院していただき、通常3・4種

類の抗結核薬を同時に投与します。そして、その投与期間は最低6～9ヶ月必要です。前回書いたように、結核菌は非常に分裂速度が遅いので、やっつけるのにも時間がかかるのです。それでこのように長期間の投薬が必要となります。治療を始めてしばらくすると咳や痰といった症状はぐっと改善してきます。しかし結核の手強いところは、そこでお薬を止めてしまうとまた確実にぶり返してくると言うところなのです。ですから、処方された抗結核薬を忘れずに最後まで飲み続けることが非常に重要です。

症状が改善したからといって自己判断で抗結核薬を飲むのを止めますと、耐性菌といって抗結核薬の効かない結核菌が体の中で出現してくることがあります。そうなると使える抗結核薬が限られてきて、さらに治療期間が長くなるかかるといった事態を招きます。ですから、そのような事態を避けるためにも、抗結核薬は定められた期間確実に飲みきることが本当に大切なのです。

北見医師会



## 親知らず（第3大臼歯）

前回に続き親知らずのお話をします。正常に生えていない親知らずを放置しておく、さまざまなトラブルを引き起こします。

- ①正常に生えていないと口の中が不衛生になるため、口臭の原因となったり、智歯周囲炎を起こしたりします。
- ②親知らずが埋もれている場合は、絶えず親知らず側の歯根が圧迫され、吸収される場合があったり、カリエスになる場合があり、ひどい場合には、第2大臼歯も抜歯しなければならない場合があります。

③特に下顎の親知らずが飛び出している場合、顎の関節に負担をかけ続けると、「顎関節症」の原因になる場合があります。

④すべての歯は、支えがなければ前方に傾いたり、移動しようとしています。歯列の最後に位置する親知らずが、正常に生えるスペースがない場合、常にすぐ前の第2大臼歯を圧迫し続けることとなります。これにより歯列全体が押されるため、歯並びを悪くする原因の一つとなります。

矯正治療をする場合、歯科医が歯並びをきれいに保つため、正常に生えてこない親知らずの抜歯を勧めるのはこのためです。

「できるだけ歯を抜かない」という最新の歯科医療の傾向は、親知らずについても例外ではありませんが、他の歯よりもさまざまな理由で抜歯せざるを得ないのが現状です。

北見歯科医師団